



# 楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第14号  
令和6年12月4日(水)  
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓「志高く 道を拓く」

○学校教育目標「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

## 健康教育講演会

～ 大村 詠一氏に学ぶ ～

大村詠一氏による健康教育講演会を以下の日程で行いました。

○期日:11月21日(木)13:40～15:00

○場所:本校体育館

○参加児童:4年生から6年生

○演題:「今、夢がなくても焦らない ～自分を見つめ、自分を磨く時期にしよう～」

○講師:大村 詠一氏(大津町教育会教育委員)

○講師紹介:

大村さんは、8歳でI型糖尿病を発症されました。その病気のたたかひの中で、エアロビック競技で才能を発揮し、ユ



ースの部で2年連続世界チャンピオン、また一般の部でも日本一になりました。現在は、現役生活にピリオドをうたれ、エアロビック競技の指導者として、また、I型糖尿病の根絶を目指した研究助成に尽力されています。

大村さんとは、10年以上前に、熊本県体力向上推進委員の業務で知り合い、度々私の勤務校にお越しいただいていました。

この度は、大村さんの人生から、病気になりながらも夢をあきらめないでエアロビック競技を続け、輝かしい結果を出せたことについて語っていただきたいと思いました。

大村さんとの事前のやりとりの中で、大村さんは、次のようにおっしゃいました

「子どもが『なりたい職業』ではなく、自分の『やりたいこと』を考え直し、今ある職業ではできないことも夢として考える機会にできればと思っています。」と。

自分のやりたいことをかなえるためには、今の自分を磨くことが大切になります。そこで、演題を「今、夢がなくても焦らない ～自分を見つめ、自分を磨く時期にしよう～」ということになりました。

大村さんは、児童とタブレットでやりとりをしながら、講話が双方向になるよう、参加型の形式で講話をされました(児童の回答は、ステージ上のスクリーンに映ります)。



タブレットを活用し、双方向のやりとりを

まず冒頭の質問では、「夢はありますか?」という問いに、子どもたちはインターネットを利用してタブレットで答えていきます。(・サッカー選手 ・イラストレーター ・デザイナー ・保育士など)であることを話されました。しかし、大村さんはおっしゃいます。「〇〇になりたい」だけではトップになれないと…。

夢については、「どんな職業についても、誰のために、どんなことをしていきたいのか…そこまで具体的に落とし込んでいくことが大切であること」を話されました。

そして、「生きている間にやりたいことって何だろう?」というテーマをもとに、ご自身の生い立ちを話しながら夢の大切さについてお話をさせていただきました。

## ～ 児童の感想 ～

私は、今日の講話を聞いて、夢について深く考えることができました。講話を聞く前は、夢は職業が多いと思っていたけど、大村さんの話を聞いて、夢は職業だけじゃなく、なりたい自分ややりたいことも夢だとわかりました。また、夢は一つじゃなくて、何個もあっていいと感じたので、今ある夢は一つだけど、この先もたくさんの夢を持って一つずつ達成したり、時にはあきらめたりしようと思いました。

大村さんの夢は、自分のためにもみんなのためにもがんばろうと努力していて、自分と同じ病気をもっている人と協力して少しでもその人たちのためや自分のために活動されているのがすごく伝わりました。

私は、これから大変なことがあっても、その苦勞をこれから生かして夢を見つけたいし、生きている間にやりたいことをじっくり考えたいです。

子どもたち感想には、「夢は特定の職業もあるけど、このような大人になりたいということがわかり、その理想の自分の姿に向かって努力したい」ということが多く書いてありました。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい  
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小 HP

